

第二回総会 会長の挨拶

一般社団法人 日本陸用内燃機関協会
会長 菱川明

時節柄、なにかとご多用にもかかわらず、御出席いただきました皆さまへ厚く御礼申し上げます。また平素より、当協会の運営につきましては、格別のご指導・ご支援を賜りここに改めて御礼申し上げます。

本日、一般社団法人日本陸用内燃機関協会第2回総会開催にあたりまして、一言ご挨拶を申し上げます。

さて、最近の日本経済の状況につきましては、政府が10月12日に発表した10月の月例報告によりますと、生産の落ち込みを受けて景気の基調判断を「回復の動きに足踏みがみられる」から「このところ弱めの動きになっている」へと3か月連続で引き下げられております。

一方、世界経済については「弱い回復となっている」と判断を据え置いておりますが、中国やアメリカ、ドイツなどで製造業の景気指数が軒並み悪化するなど先行き不透明感を増しており「不確実性が高い」という表現が追加されております。

このような状況の中、当協会ではエンジンメーカー21社を対象にアンケート調査を実施し、平成24年度の陸用内燃機関の生産と輸出の中間見通しを纏めました。

はじめに、国内生産の見通しに関してですが、ディーゼルエンジンについては、前年比1.9%減の142万台、ガソリンエンジンは、13.1%減の355万台となっております。

次に、輸出に関してですが、ディーゼルエンジンの単体「輸出」見通しは、前年比2.0%増の90万台、ガソリンエンジンは、8.2%減の166万台となっております。

更に、海外生産に関しましては、ディーゼルエンジンの見通しは、前年比10%増の42万台、ガソリンエンジンは、前年比13.3%増の1020万台となっております。

中間見通しからも見てとれますように、ガソリンエンジン・ディーゼルエンジン共に、国内生産が前年比で落ち込んでいるものの、海外生産が増加しております。

国内と海外を合わせた平成24年度の総生産台数見通しは4.5%増の1559万台で、国内での復興需要と新興国での旺盛な需要もあり、全体として増加する見込みとなっております。

また、生産を海外にシフトする動きは、特にガソリンエンジンで顕著に見られます。

ご承知の通り、世界各国での景気の減速に加え、中国の反日の動きが継続しており、大きな影響を受けている会員の皆様も多いかと拝察いたします。

更に、日本の中でもエネルギー政策の方向性が決まるまでは大きな設備投資を控えるという動きが見られ、事業環境に一層の厳しさを加えている状況です。

しかしながら、我々の内燃機関について申しますと、どのようなエネルギー政策におきましても、動力源として重要な選択肢の一つであることに変わりはなく、一定の役割を果たすことが期待されていると信じております。

第二回総会 会長の挨拶

一般社団法人 日本陸用内燃機関協会
会長 菱川明

事業を通じて社会に貢献して行くという観点からも、責任感と誇りを持って前進を続けて行くことが我々の使命であると思っており、陸内協といたしましても、そうした皆様をしっかりとサポートするという責務を果たし続けていく所存です。

最後になりましたが、会員各社様の益々のご発展と、皆様のご健勝を心から祈念申し上げます。私のご挨拶とさせていただきます。